



NO.

いちょう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草 7-4-1

- 0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

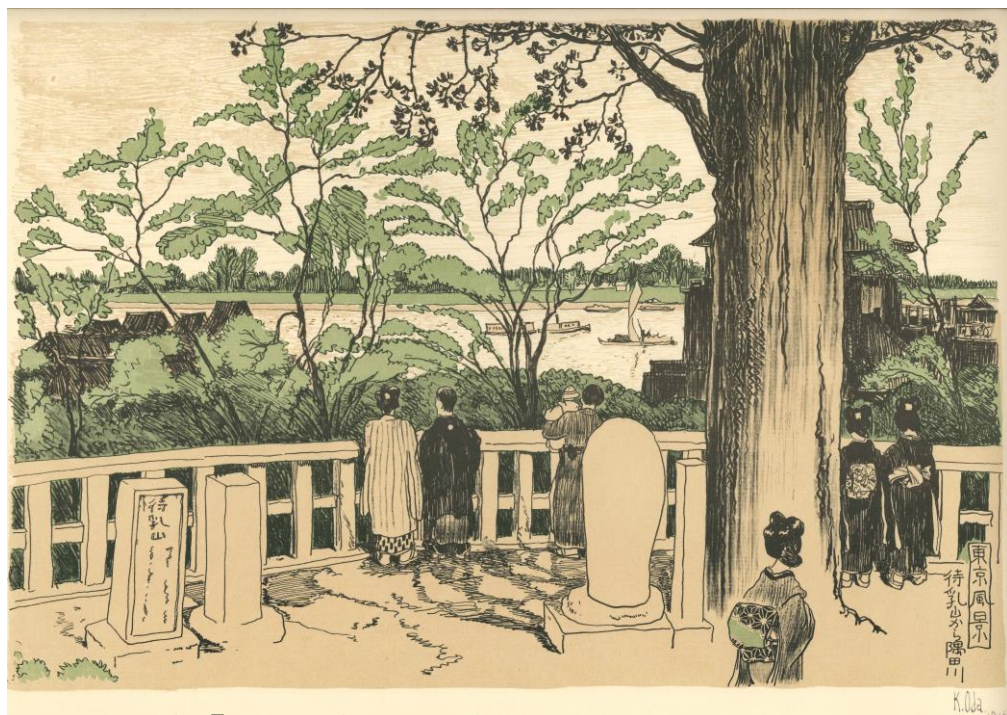
隅田川

住職 平田真純

街中であつても、山間の集落であつても、そこに川が流れ、その水面を^{みなも}目にすると、私たちの心は落ち着きます。水というのは、生命の維持にとって大切なものであると同時に、心をも支配するものなのでありましょう。

待乳山の山下にも隅田川という大きな川が流れています。現在の隅田川は、北区の岩淵水門で、荒川から分流している形になっていますが、かつては荒川の本流でありました。明治になって都市化の進んだ東京の洪水対策として、荒川放水路の工事が昭和五年に完成し、秩父を水源とする荒川の下流部は、隅田川と荒川に分かれることになったわけです。ですからおそらく、浮世絵によく描かれていた当時の隅田川は、今よりも大河の雰囲気を持っていたのではないかと思います。人や物資を運ぶ交通の大動脈であり、人々や環境に恵みをもたらす源でもありました。

密教では^{あかすい}関伽水（清浄な水）をもって自身や道場などを浄める作法があります。水は万物の汚れを洗い浄



織田一磨『織田一磨石版画集東京二十景・待乳山』

(株式会社東出版 1975 年)

め、力を与える象徴と考えられましょう。そんな意味からあらためて川の流れを眺めると、心が癒されると同時に、無限の力のようなものが感じます。自然の力はすなわち神仏の力と言えます。

待乳山便り

日帰り信徒旅行 報告

六月二十九日 氷川神社、平林寺を巡る信徒旅行がありました。

氷川神社では人形に一年の汚れを預けて流したり、神社の方に茅の輪くぐりの正しい作法を丁寧に教えていただき清々しい気持ちでお参りをいたしました。

その後平林寺に移動。平林寺雲水の導師のもと、本堂で般若心経をお唱えいたしました。



修行道場の緊張感に溢れた雰囲気一同が引き締められました。
お勤め後は徳川家光・家綱の老中を務めた松平信綱のお墓など境内各所をご案内いただきました。

お宮参り

七月一日、西入耶慧ちゃんのお宮参りを行い、行者様よりお加持を授かりました。尊天様のご加護を受けて、健やかに成長されることをお祈りしております。



八月御縁日大法要行事紹介

灯明講

八月二十日(火) 午前十二時

講金 一、五〇〇円

八月二十日、灯明講大法要を行い、聖天様にお供えするロウソクを供養いたします。

灯明は仏教では智慧の象徴とされており、私達は仏教では智慧の象徴とされており、心の中は暗闇に包まれているでしょう。逆に調子のよい時には、かえって自分自身のことや周りが見えなくなっていることはよくあることです。

灯明をお供えすることにより、聖天様のお智慧をいただくとともに、自分自身の心を照らし清浄な心にしていきます。

私達は煩惱や苦しみに惑わされ生きておりますが、私達を含め、命のある物は皆悉く仏の心を備え持っていると言え、涅槃経に説かれております。



心を照らし、雑念を離れた清浄な仏の心でお参りすることにより、聖天様のご利益・ご加護を一層いただけるでしょう。

多くの方に灯明講にご参加いただき、聖天様のお智慧の炎をともし、皆様の中の仏心を照らしましょう。

浮世絵展 イベントのお知らせ

「浮世展」く待乳山・隅田川・山谷堀く

隔年で開催している浮世絵展ですが、今年は九月十四日～十月六日の開催となります。

時間は午前九時半より午後四時まで、信徒会館大広間特設会場で行われます。

また、開催期間中イベントもごいますのでご案内いたします。

●九月十四日(土)

開白法要(オープニングセレモニー)

「待音連・猿若囃子」による祭囃子

「吉原狐社中」による狐の舞

●九月二十日(金) 開山会大法要

参道にてお抹茶接待(有料)

●九月十六日(祝日)、九月二十九日(日)

藤元裕二氏によるギャラリートーク(浅草寺教化部学芸員、公益財団法人禅文化研究所研究員)



イラスト：Shiga

山谷堀の今昔②

九月に開催される浮世絵展、今回のテーマの一つである山谷堀について先月に引き続きお話をします。

今月は聖天橋からスタートします。最下流の今戸橋よりも上流に行くとき待乳山聖天のふもとにあたる聖天橋があります。

比較的新しい橋のようで江戸時代の古地図には載っておりません。

山谷堀が埋め立てられる少し前までこのあたりには船上で生活していた一家があったそうです。

現在の山谷堀公園では猪牙舟の形をしたベンチが設置されております。

猪牙舟は、吉原通いの遊客を乗せた二〜

三人乗りの高速船でした。長吉という人が作った小舟を長吉船と呼び、そこから変化して猪牙舟となったと言われておりますが、猪の牙に似た形をしているからとも言われております。



運賃は柳橋より山谷堀

までで片道百四十八文(千五百円〜三千円程度)との

記録があり、当時の人々にとつて、徒歩ではなくこの

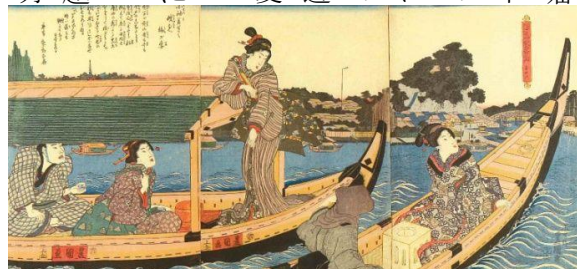
猪牙舟に乗って吉原に遊びに行くというのは大変

贅沢でした。

聖天橋から更に上流に行くとき吉野橋があります。

以前は山谷橋や新鳥越橋と呼ばれていました。明治二年に町名変更で新鳥

越町が吉野町となり、同時に橋の名前も吉野橋と



江戸名所発句合之内隅田川



なりました。このあたりが野原であったことから、

縁起のいい「吉」の文字が加えられ吉野という地名がつけられたと言われております。

橋のたもとには土手の道哲と呼ばれた道哲和尚が庵を結んだ西方寺がありました。西方寺はいわゆる投げ込み寺で、三ノ輪の浄閑寺と同様に身寄りのない遊女が葬られました。

大正十五年、西方寺は巣鴨に移転しましたが、お芝居にもなった高名な遊女高尾太夫と道哲の墓が現在もあり、高尾の墓の灯籠には「土手道哲」、「山谷堀」、「今戸橋」の文字の他に「待乳山」の文字が刻まれているそうです。

西方寺の裏にある遍照院は北斎が亡くなるまで住んでいました。晩年の画号は『画狂老人』。

また、吉野橋から

浅草方面に向かうと、浅草三座があった浅草猿若町に進みます。

江戸歌舞伎の始祖、猿若勘三郎の名前からつけられた町名で、江戸末期の芝居町として栄えました。



江戸名所猿若町繁昌の図

浮世絵展―待乳山・隅田川・山谷堀―

令和元年九月十四日〜十月六日 入場無料

八月行事予定

御縁日大法要

灯明講

八月二十日（火）午前十一時

講金 一、五〇〇円也

仏の智火をあらわす灯明を供養し、各々の身体健全、家内安全を祈願します。

朝まいり会

八月一日〜七日

午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。

日曜勤行

八月十一日（日）

午前九時

参加費 無 料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

八月十一日（日）

午前十時／午後一時 会 費

五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

午後は空いていますので、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

八月二十四日（土）午後五時〜七時

定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

八月二十五日（日）

午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆様とご一緒にお上げする御礼の法要です。

九月の行事 御縁日大法要

開山会大法要

九月二十日（金）

午前十一時

講金 三、〇〇〇円也

浮世絵展

九月十四日（土）〜十月六日（日）

午前九時半〜午後四時 入場料 無料

祈禱のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、

私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈禱料

別座祈禱 壺万円（一週間）
浴油祈禱 三千五百円（一週間）
華水供 五百円（一日）

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすること、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壺万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。